

# 米中間選挙、 下院では共和党優勢も、民主党が善戦

## ポイント① 下院は共和党が奪回の見込み

11月8日、米中間選挙が投開票されました。日本時間10日正午現在、連邦議会下院は、与党・民主党の188議席に対し、野党・共和党が208議席と、共和党がリードしており、4年ぶりの多数派奪還が見込まれますが、事前予想に比べて民主党が善戦しているようです。

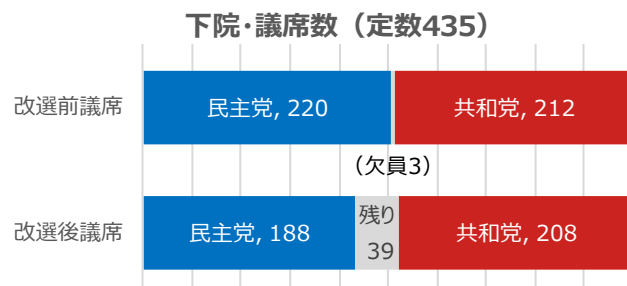
## ポイント② 上院は激戦、民主党は善戦

上院は、任期6年の100議席のうちおよそ3分の1にあたる35議席が改選対象となります。残り3議席を残し民主党が12議席、共和党が20議席（日本時間10日正午現在）を獲得、非改選と合わせると民主党は48議席、共和党は49議席と大接戦となっています。事前予想では共和党優勢とみられていましたが、ペンシルベニア州で共和党から議席を奪い、バイデン大統領が「（共和党のシンボルカラーにちなんだ）『レッドウェーブ』は起きなかった」と断言したように、民主党が善戦しています。

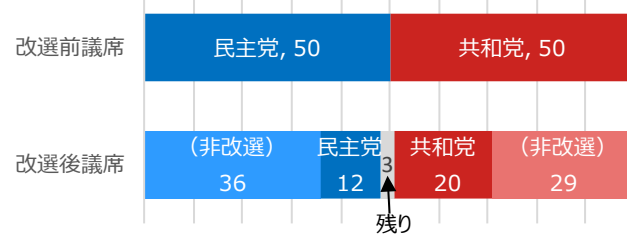
## ポイント③ 経験則でみる米金融市場

今回の選挙結果で、共和党が下院を制する可能性が高いため、2年後の米大統領選まで米政治は「ねじれ※」状態になるとみられています。1989年以降の34年間で振り返ると、大統領と上下院ともに同じ政党が支配する時期は少なく、同期間の6割以上が「ねじれ」状態にあったことがわかります。「ねじれ」により、バイデン大統領の政策運営が困難になるとされていますが、過去の経験則でみると、「ねじれ」期間が長い中でも、株式市場は順調に上昇してきたことから、株式市場への影響は限定的である可能性が高いと思われます。

米中間選挙における改選議席数

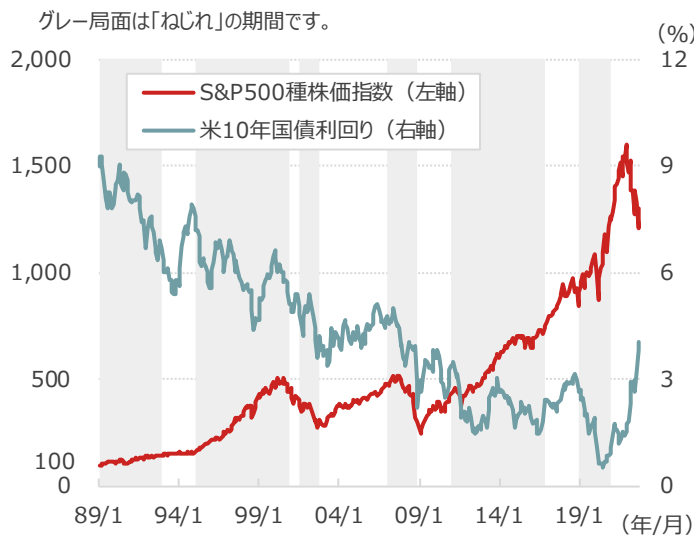


上院・議席数（定数100（改選35））



民主党の非改選36議席には無所属2議席を含む  
(出所) 米上院ホームページやCNN等より野村アセットマネジメント作成

## 米国の株式・債券市場、ねじれ期間の推移



期間：1989年1月末～2022年10月末、月次  
※本レポートでは、上下院の多数派が異なる政党に分かれる状態（ねじれ議会）や、大統領の出身政党と議会の多数派政党が異なる状態（分割政府）を合わせて「ねじれ」と表現しています。  
S&P500種株価指数は1989年1月末を100として指数化  
(出所) Bloomberg、米上下両院ホームページ等より野村アセットマネジメント作成

<b>重要 イベント</b>	11月16日	米小売売上高、米鉱工業生産指数（10月）
	11月23日	米製造業・サービス業PMI（購買担当者景気指数）（11月）